

(様式 1)

令和 2 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな個性と豊かな心を持ち、生涯にわたって自ら学び考えながら自己実現に努め、社会の変化に対応して逞しく生きる人間の育成を目指す。

2 学校の特色

- ・ 定時制の課程(昼間単位制・夜間単位制)、通信制の課程、専攻科を備えた定時制通信制の学校である。
- ・ 単位制のシステムを取っており、生徒が自分の将来の進路希望や興味関心に合わせて学習する科目を選択して「自分の時間割を自分で作る」という弾力的な教育課程を編成している。
- ・ 前期と後期の 2 学期制で、9 月卒業や 10 月入学も可能である。単位を各学期末に分割認定する科目も設けており、自分の学習計画に基づいて学ぶことができる。
- ・ 県民生涯学習カレッジ富山地区センターを併設しており、社会人と高校生と一緒に学ぶ共学講座を開設している。
- ・ 学習支援部では、個々の生徒の実情や進路希望に応じた学習活動が行えるよう支援している。
- ・ 保健相談部を中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーターとともに、生徒が自己効力感を持って、良好な人間関係作りができるよう支援している。
- ・ 自立活動「サポート・スタディ」を通して、個々の生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことができるよう支援している。

3 学校の現状と課題

近年の社会の変化や、生徒の価値観・進路意識の多様化などの状況を踏まえて、本校では魅力ある定時制通信制教育の推進に努めてきた。

不登校経験者や全日制中途退学者も一定数おり、学力や学習意欲、家庭環境等、生徒が抱える課題は多様化・複雑化している。このような生徒が、卒業後社会人として自立し、逞しく生きる力を身につけるため、学校では個々に対応したきめ細かな支援を行っていかなければならない。

本校では、校舎移転を機に各課程の協力体制の整備を図り、本校生徒の実態に即した組織的で効果的な指導體制の充実を図ってきた。今後さらに、学習支援部、進路指導部、保健相談部と年次担当等との連携を重視するとともに、本校が持つ学びルームや YUHO ルームなどの施設面、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの人的面等の強みを生かし、個に応じた学習活動や、社会的自立に向けた能力を身につけるための支援の充実を、日常的に進めていくことが求められている。

(様式2)

4 学校教育計画

| 項 目 | | 目標・方針及び計画 | |
|-----|-------------------------------|-----------|--|
| 1 | 学習活動 【その1】 重点1 (①②③) | 目標 | ○単位制の特色を生かし、実態に応じた教育課程を編成する。 ○個々の学習目標に基づく単位・技能修得が順調に行えるような体制を整える。 |
| | | 計画 | ○多様な履修形態や単位認定制度を設ける。 ○ <u>生徒の特性や学力差に対応する習熟度別講座や学校設定科目などの充実を図る。</u> ○教科指導法の改善のために校内研修や調査分析を実施する。 ○生徒の進路希望や学習目標に対応した受講指導と学習支援を充実させる。 ○ <u>自主的な学習や探究心を高めるための効果的な学習方法について指導を工夫する。</u> ○ <u>専攻科では専門科目の充実・広範な知識の理解を図り、調理師としてより確かな技能を修得できるようにする。</u> |
| | 学習活動 【その2】 重点2 (②③⑦) | 目標 | ○生徒の学ぶ意欲に応えるために、一人ひとりに応じた学習活動を支援する。 ○社会的自立に向けた資質・能力を身に付けることができるよう支援する。 |
| | | 計画 | ○生徒向けの受講ガイダンスを実施したり、学習の手引を作成したりすることで、生徒の興味や関心、適性に応じた受講ができるよう支援する。 ○自主学习室「学びルーム」の環境整備と運営を行い、生徒が学習できる環境を整える。 ○学力差が大きく、進路希望も多岐にわたる生徒に合わせた学習活動を支援し、基礎学力を定着させ、学力の向上を図る。 ○総合的な探究の時間において、本校独自のキャリア講座を実施し、生徒が将来の生き方を考え、社会で自立できる力が身に付くよう支援する。 ○学校図書館において、教室における教科学習から一歩前進し、 <u>生徒の自主的な学習態度、特に読書習慣が身に付くよう支援する。</u> |
| 2 | 学校生活 【その1】 重点3 (⑤) | 目標 | ○規律や秩序を尊重する態度を養い、自主的・主体的に生活する能力を育てる。 |
| | | 計画 | ○問題行動の未然防止、規範意識の向上を図り、各課程の生徒指導部が協力・連携して情報を共有しながら、雄峰高校として <u>一体感を持った生徒指導を実施し、充実と深化を図る。</u> |
| | 学校生活 【その2】 重点4 (⑧⑨) | 目標 | ○学校生活における生徒の安全と健康を確保する。また、自らの命を守るために、生徒の防災意識の向上を目指す。 |
| | | 計画 | ○ <u>防災意識の現状を把握し、高めるための方策を実行する。</u> ○ポスター、保健だよりなどで、健康管理や治療を呼びかける。 ○健康的な生活の基盤となる環境作りを目指し、保護者との連携を密にする。 |

| 項 目 | | 目標・方針及び計画 | |
|-----|--------------------|-----------|---|
| 3 | 進路支援 重点5 (⑥) | 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○将来を見据えた、主体的な進路選択ができるよう支援する。 ○進路に関する知識や情報を与え、進路支援の機会を増やし、生徒の進路意識を高める。 |
| | | 計画 | <ul style="list-style-type: none"> ○進路希望調査や実態調査、適性検査を踏まえて生徒の実態を把握し、個別指導に役立て、充実を図る。 ○進路ガイダンスや進路学習を通して進路意識を向上させ、<u>進路実現に向けての準備を早いうちから進路別に行う。</u> ○進路に関する情報収集に努め、ハローワーク等の関係機関との連携を行いながら、生徒への進路指導の充実を図る。 ○専攻科では、専門分野への就職を目指す。 |
| 4 | 特別活動 重点6 (④) | 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒相互や教職員との関わり、地域・社会とのふれあい等を通して、自主性・協調性・社会性を育み、学校生活の充実を図る。 ○生徒の集団への所属感や連帯感を高め、協力して学校行事・部活動などに参加しようとする意識の向上を図る。 |
| | | 計画 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校行事や部活動への参加意欲と積極性の向上を図るため、地域との連携なども視野に入れた活動の運営を工夫する。また、学校行事・諸行事・諸活動の教育的効果を検証する。 ○ホームルームの年間計画を確立し、計画的な指導を行う。 ○生徒会活動や委員会活動などの<u>自主的活動を重視</u>する。 ○<u>各課程の生徒会が行事について意見を交換し、他課程の特色を理解しつつ、4課程が協力して行事を運営する。</u> |

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

| 令和2年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.1- | |
|-----------------------------|--|
| 重点項目 | 学習活動 【その1】 |
| 重点課題 | 学習習慣の確立と単位修得 |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none">生徒の家庭環境や育成歴が多様で、生活力・体力・学力の格差が大きい。発達障害等により困難を抱えてきた生徒が多く、学習習慣が身に付いていない。基礎学力の定着度が学習活動と単位修得に大きく関連している。また、通信制には、心身の健康や適応性の問題など様々な経緯から入学・転編入学している生徒が多数いる。専攻科では生徒の知識・関心の度合いに差が大きく、一斉指導が難しい。実習において作業工程をしっかりと理解できない生徒が増加している。昨年度の単位修得率は、定時制・昼間単位制が79% (前期)、夜間単位制が72% (前期)、通信制が71% (前期)、専攻科が86% (学年末) となっている。 |
| 達成目標 | 単位修得率 定時制・通信制は前期の集計、専攻科は学年末の集計 【定時制】80%以上【通信制】75%以上【専攻科】100% |
| 方 策 | 【定時制】 <ul style="list-style-type: none">出席率を向上させるため、健康面や学習状況に応じて教員間の連携や保護者への連絡など早期対策を行う。年次担任が中心となって生活指導や進路相談の体制を充実させる。カウンセラー等の専門家や外部機関との連携を強化し、不登校傾向など問題を抱える生徒に対して単位修得や進路目標を意識づける。 【通信制】 <ul style="list-style-type: none">スクーリングや個別面談を通して生徒の学習状況把握に努め、学習への適切な助言や添削を行うことで自学自習の意欲向上と定着を図る。レポート提出前の個別指導や科目担当者との面談の体制をより充実させ、学習達成度に応じた学習指導をきめ細かく行う。学習活動が円滑に開始できるようにガイダンスやホームルーム活動を通じて、生徒の不安や疑問を解消しながら学業に取り組めるよう支援する。 【専攻科】 <ul style="list-style-type: none">生徒の生活面や学習状況を把握し、教員間の連携を強化し効果的な指導法を工夫する。実習で予習と復習の時間を設定し、学習効果と実技の定着度向上を図る。 |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

| 令和2年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.2- | |
|-----------------------------|--|
| 重点項目 | 学習活動 【その2】 |
| 重点課題 | 読書習慣の定着 |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none">昨年度、図書館に行ったことのある定時制生徒の割合(12月のアンケート結果)は79.9%で達成目標の75%には達したが、生徒の図書館利用率の増加が必ずしも読書数の増加にはつながっていなかった。定時制生徒(昼間・夜間)の1年間の図書貸し出し数は2.55冊/人(令和2年3月31日現在)であった。(昼間2.53冊・夜間2.67冊)読書習慣が身につけている生徒は限られている。夏期休業中に読書感想文の課題を出し、図書館の利用を呼びかけているが、利用する生徒は限られている。 |
| 達成目標 | 定時制(昼間・夜間) 生徒一人あたりの1年間に読書する本の数(マンガ以外) 3冊以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none">読書会にビブリオバトル(本の紹介コミュニケーションゲーム)を取り入れ生徒が読書したくなるようなきっかけづくりをする。図書委員がビブリオバトルの研修に参加し、読書の魅力を多くの生徒に伝える。図書館オリエンテーションを実施し、図書館を通して生徒がより手軽に図書(本)と接していくことができる状況を創出する。図書館の図書の貸し出し冊数を無制限にする。電子掲示板や図書館だより・図書館前の掲示板で、新着図書やおすすめの本を紹介し、生徒が読書したくなるような様々なしかけをする。 |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

| 令和2年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.3- | |
|-----------------------------|---|
| 重点項目 | 学校生活 【その1】 |
| 重点課題 | 生徒指導体制の確立 |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 本校は、4課程を有することから、一体感を持った生徒指導が難しい。登下校指導については、「さわやか運動」を中心とした取り組みにより連携を取ることができるようになってきているが、生徒の登下校時間が各課程によって異なることから、普段はそれぞれの課程が独自に指導している。4課程が連携して指導できる体制に不十分などところがある。 定時制（昼間・夜間）では制服が定められている（夜間は制服の着用を義務づけていない）が、通信制・専攻科は私服登校であるため、一般来校者との見分けがつきにくい。他課程の生徒に声かけしにくい状況にあり、課程を越えた声かけや指導が難しい。 昨年度の挨拶に関する意識調査では、挨拶実施率が64.1%であった。 |
| 達成目標 | 挨拶実施率（挨拶に関する意識調査において） 70%以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> 朝の登校時には昼間・通信・専攻科教員が、夕方の昼間の下校時と夜間の登校時には、昼間・夜間教員が、夜間の下校時には夜間教員が協力して指導にあたる。 挨拶、身だしなみ指導などの声かけを行い、登下校時の生徒指導全般について課程を越えた指導体制の充実に繋げる。 「さわやか運動」を活用して生徒会、各種委員会が主体的に挨拶・声かけ運動や清掃ボランティア活動などを行うことによって、生徒の意識高揚を図る。 P T Aや地域の方々にも参加を呼びかけ、活動の充実を図ることで、保護者や地域の方々にも生徒の状況を把握してもらおう。また、生徒が近隣の目を意識することで、学校周辺での問題行動の抑制に繋げる。 挨拶に関する意識調査を前期1回、後期1回行う。 |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

| 令和2年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.4- | |
|-----------------------------|--|
| 重点項目 | 学校生活 【その2】 |
| 重点課題 | 生徒の防災意識の現状把握と防災意識の向上 |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の世界的流行や気候変動・地震・火山活動の活発化による災害の多発化など不安定化が加速している。このような状況下においては、生徒には自らの命を守るためにリスク回避の正しい知識を持ち、安全に避難行動ができる能力が求められている。 富山県では自然災害が少なく、災害に対する危機意識が低いように感じる。 生徒は、災害時にどのような行動をとり、自らの身を守ればよいかの知識が乏しい。また、自分の居住地付近の避難場所等についてもあまり知らない。 富山県でも自然災害が起きる可能性は十分あり、災害に備える必要性がある。 |
| 達成目標 | 災害時における居住地・学校付近の避難場所を知っている生徒の割合 70%以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の防災に対する意識調査を行い、現状と課題を明らかにする。 外部講師による講義の機会を設ける。その際、自分の居住地に焦点を当てたり、学校周辺のハザードマップ等を活用したりしながら、実際に災害が起きた時、すぐに役立つ知識を身に付けさせる。 保健室前の掲示板を活用し、生徒の興味関心を引くような掲示物を作成し、防災についての意識を高める。 毎月発行している保健だよりに、防災をテーマにした記事を連載することにより、防災についての知識、情報を得る機会とし、防災についての興味関心を持たせる。 防災教育後にアンケートを実施し、その結果を考察し次年度に生かす。 |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

| 令和2年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.5- | |
|-----------------------------|---|
| 重点項目 | 進路支援 |
| 重点課題 | 進路実現をめざす支援活動 |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識が卒業に向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。 ・進路決定に必要な知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。 ・進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。 ・昨年度の達成度（3課程平均 76.9%・専攻科 100%）は、専攻科を除いて、達成目標を下回っている。 |
| 達成目標 | 年度末での進路先決定率 就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とする。 進学に関しては第一志望に限定しない。 90%以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査等を通して早い時期から卒業後の進路について考えることにより、受講登録など学習計画に反映させ、進路実現ができるよう支援する。 ・外部講師による進路別講義や、卒業生による合格体験談の機会を増やし、進路意識の向上を図る。 ・オープンキャンパスや応募前職場見学などに積極的に取り組み、進路意識を高める。 ・大学入学共通テストや新たな様式の進学用調査書に関する情報を収集する。 |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

| 令和2年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.6- | | | | | |
|-----------------------------|---|-------------------|------------------------|-------|------|
| 重点項目 | 特別活動 | | | | |
| 重点課題 | 生徒が主体となる自主的な特別活動の推進 | | | | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。 ・生徒の多くは自主性に乏しく集団活動を苦手とし、学校行事の参加に消極的なため、参加形態や内容に工夫が必要である。 ・日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。 ・昨年度の特別活動参加生徒満足度の平均は 87%であった。 | | | | |
| 達成目標 | <table border="1"> <tr> <td>① 特別活動に参加した生徒の満足度</td> <td>② 生徒主体のボランティア活動の年間実施回数</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>3回以上</td> </tr> </table> | ① 特別活動に参加した生徒の満足度 | ② 生徒主体のボランティア活動の年間実施回数 | 85%以上 | 3回以上 |
| ① 特別活動に参加した生徒の満足度 | ② 生徒主体のボランティア活動の年間実施回数 | | | | |
| 85%以上 | 3回以上 | | | | |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・学園祭では4課程合同の企画によって各課程間の相互理解を深めるとともに、多くの生徒が意欲的に取り組むことができるよう、各課程の特色を生かすことを考慮する。 ・生徒会執行委員会と各委員会が連携して活動することで、生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。 ・施設訪問や地域との交流など、生徒が主体的に参加し活躍できるボランティア活動の機会を増やす。 ・行事ごとに行う事後アンケートの内容を工夫し、生徒の満足度や問題点を分析し次年度に生かす。 | | | | |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)